

〈(2)-4〉

主体者／ 連携・協力先	鯖江IoT推進ラボ / jij.jp (株)、ヤフー (株)、(株) アートファイネックス Code For Japan、(株) サクラインターネット
取り組み名称	バス乗客リアルタイムオープンデータシステム
取り組みポイント	<input type="checkbox"/> (1) 地域交通の取り組み <input checked="" type="checkbox"/> (2) 情報利活用の取り組み <input type="checkbox"/> (3) 生活基盤への取り組み
取り組み課題	バスの乗降者数の見える化

〈取り組みの概要〉

公共交通は、高齢者や学生など交通弱者の移動手段、高齢者運転による事故の抑制、二酸化炭素による地球温暖化対策などに対してきわめて有効なことから、さらなる充実と利用促進が望まれています。この課題に対して、ヤフー株式会社から社員2名の方をCode for Japan コーポレートフェローシップ事業で派遣いただき、オープンデータで協力いただいている地元の(株)jij.jpさん、ICタグなどでIoT事業に早くから取り組んでおられる(株)アートファイネックスさんにバス乗客リアルタイムオープンデータシステムを提案していただきました。

鯖江市は、2012年からつつじバスの位置情報をWEBで公開し、利用者の利便性を高めてきましたが、このシステムはさらに、乗客数を見る化し利便性をさらに高めるとともに、そのバス停ごとの乗降者数データを蓄積、分析しより効率的な運行を目指すものです。

このシステムはバスの乗務員の乗降者記録、集計、市職員のこれらの記録の月集計なども自動化を進め、業務低減にもつながるものです。

また、この過程で若者、高齢者など市民を巻き込んだ「『つつじバス』をみんなでもりあげようアイデアソン」を行いました。

2017年4月から鯖江市では運行ダイヤを全面見直ししましたがこれに合わせ、このシステムをコミュニティバス全8台に設置運用しています。

経費について、機器は市販の部品を使い誰でも簡単に組み立てられるもので、1台3万円程度、また、通信費についても新しいIoTサービスで1台60円/月と安く構築できました。

〈取り組みポイントについての具体的説明〉

バス乗客リアルタイムオープンデータシステム

○バス乗降客数の見える化取り組み

バスの乗降者バス停ごとの乗降者数を入力するとリアルタイムにデータがサーバーに蓄積され、オープンデータとして公開するとともにその情報をWEBに公開するシステム。

バス入力機



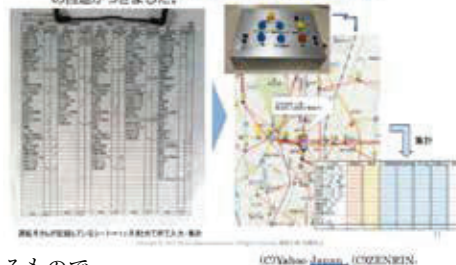
モニター表示

乗降者数の見える化 (<http://fukuno.jij.jp/app/bus/busgraph.html>)

○バスの運転手の業務軽減、市の集計業務の軽減を進める取り組み

バスの乗務員が記録していたものを自動化、市職員が行っていた月の集計も自動化された。

- バスの乗降客数の見える化と乗客数の集計(省力化)の目途がつかまりました。



○横展開可能な構築費 ((IchigoJam使用))

経費について、機器は市販の部品を使い誰でも簡単に組み立てられるもので、1台約3万円程度、また、通信費についても新しいIoTサービスで格安で構築できた。

